

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4571900242		
法人名	社会福祉法人 慶明会		
事業所名	グループホーム サンメリー		
所在地	国富町大字岩知野355-1		
自己評価作成日	平成23年1月27日	評価結果市町村受理日	平成23年3月25日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kouhyou.kouhohoren-miyazaki.or.jp/kaigospip/infomationPublic.do?JCD=4571900242&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会		
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階		
訪問調査日	平成23年2月15日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当ホームは自然に囲まれた場所にあり、皆様のんびりと自然の太陽の恵みを満喫されています。畑では季節に合わせた無農薬野菜を作り、料理にも利用しています。私たち職員は、ご家族様とも協力しながら、利用者様が安心して望む暮らしが継続できるよう日々努力するとともに、利用者様の笑顔を引き出す支援を最も大切にさせていただいています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

運営推進会議は区長、利用者家族、町職員、民生児童委員等の参加の下、概ね2か月に1回開催されている。利用者の状況報告や外部評価の結果報告を行い、更なるサービス向上につながるよう生かしている。ホームは無記名アンケートを活用し、利用者本人、家族が意見や要望等を表しやすいよう努力している。家族の来訪時には、口頭で情報提供を行い、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。契約時に重度化や終末期に関する指針を説明。同意書も用意されている。ホームは主治医や家族との話し合いを繰り返し、訪問看護の協力ももらいながら利用者、家族の希望に沿えるチーム体制を整えている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を見やすい場所に掲示し、毎朝唱和し、日々理念の精神の下、ケアを実践している。	職員全員で作り上げた理念を利用者とともに毎朝唱和している。常に理念を心がけ、日々の実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩の際は、必ず挨拶を交わしたり、ふれあい教室の開催、中学生の受け入れ、地元ボランティアの交流、地元消防団との交流、区長や民生委員との交流を日常的に実施している。	地域住民の一員として地区の行事参加やボランティア受け入れを積極的に行っている。常々から区長や民生・児童委員との交流を図り、地域との接点を持つ努力を重ねている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の認知症高齢者の見守り支援を民生委員と連携を図りながら協力しあっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は区長、民生委員、町職員、家族等の参加を得て、利用者状況活動報告、その他の事業報告等を行うと共に、意見交換したことについて職員会で協議し、ケアにつなげている。	運営推進会議は区長、利用者家族、町職員、民生・児童委員等の参加の下、概ね2か月に1回開催されている。会議では、利用者の状況報告や外部評価の結果報告を行い、更なるサービス向上につながるよう生かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	待機者状況や運営上の相談、申請手続きについての相談等、電話、FAX、または直接出向いて協力関係を築いている。	運営上の相談や火災等に関する相談、地域の情報を得る等、町役場(職員)との協力関係が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会に参加し、知識や理解を深め、日中は鍵をかけず、自由に行動できるようにしている。	新人研修をはじめとする勉強会で学ぶ機会を設け、鍵をかけない暮らしの大切さや身体拘束をしないケアの実践を行っている。管理者は、日々の実践の中でも考える機会をつくり、意識の高い職員が育成されている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように細心の注意を払っている	勉強会に参加し、虐待について学ぶ機会を設けており、見過ごされることがないように細心の注意を払っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	勉強会に参加し、制度の理解や知識を深めている。利用者や家族の相談に応じて、実際に、成年後見制度の利用を開始された利用者がある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	不安や疑問点について、納得いただけるまで十分な説明を実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者、家族には日頃から意見や不満等はないか、口頭で尋ねたりアンケートをとったりしている。その結果は、運営推進会議で報告。また、職員会議で話し合いを実施、ケアに反映できるよう取り組んでいる。	ホームは無記名アンケートを活用し、利用者本人、家族が意見や要望等を表しやすいよう努力している。家族の来訪時には、口頭で情報提供を行い、何でも言ってもらえるような雰囲気づくりに留意している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議や職員会議で話し合いの場を設けて、意見や改善策を検討している。	管理者は、運営会議や職員会議で出された職員の意見に耳を傾け、運営に生かしていることと協議を重ねている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を評価・表彰するシステムがある。また、キャリアパス策定の推進に向け、勉強会に参加し、環境整備に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の力量に合わせた、法人内・外の研修会参加を積極的に支援している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	宮崎県グループホーム連絡協議会や国富町グループホーム連絡協議会に参加し、交流を図り、よりよいサービスの向上に向け努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前面接の実施。本人や家族、または、担当ケアマネから情報を得て、本人の安心確保に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	事前面接時、十分な時間を設けて、しっかり受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	事前面接にて現状をしっかり受け止め、望んでいることは何なのかを見極めながら、場合によっては他のサービスや他施設の紹介を実施している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	料理に関することや、昔ながらのしきたり等、人生の先輩として利用者からの学びはたくさんあり、日々、支えあう関係ができています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	食事介助を家族と交替で支援したり、通院介助、または、排泄介助等、家族と職員と一緒に実施したりしながら、共に支え合う関係ができています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	お盆やお正月帰省、親族の会合等で外出や外泊の希望があれば、いつでも応じています。	住み慣れた地域で形成された、なじみの知人や友人等と交流ができるよう情報を共有し、つながりが継続できるよう支援を行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う利用者同士の会話を支援したり、個々の性格の発揮が生きがい作りにつながるよう支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	外出先等で会う機会があれば、挨拶を交わしたり現況を尋ねたり、相談があればいつでも応じている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意志表示困難であっても、利用者の思いを汲み取ることをまず第一に考え、家族の意向もお聞きしながら、ケアに生かせる努力をしている。	細かな情報が得られるアセスメントツールを生かし、利用者一人ひとりの思いや希望、意向を把握している。全利用者(女性)の身だしなみを整え、家族にも意向を聞く等、ホームを利用する前と変わらぬ暮らしを提供しようと努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントシート記入により、これまでの暮らしの把握に大いに役立ち、日々のケアに生かされている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申し送りによる前日の状況、その日の朝のバイタルチェックで身体状況を把握した上で、利用者個々の一日の過ごし方を支援している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、必ず全職員でモニタリングを実施するが、その時々の利用者の変化に応じて、主治医やその他の専門職の意見や本人、家族の意見を反映できるよう介護計画を作成している。	全職員によるモニタリングが行われ、利用者の変化や家族の意向、主治医等の専門職の意見が反映された介護計画となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	観察記録ノート、日誌、申し送りノートを活用して情報の共有を図りながら、日々のケアの実践や介護計画の見直しを実施している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に応じて外出を支援したり、定期受診以外での歯科受診や耳あかどりの為の通院支援など、その時々ニーズに合わせて柔軟に対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員やボランティア、婦人部会との交流や中学生の体験学習の受け入れ等で、豊かな人間関係の構築に向け努力している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望のかかりつけ医への継続受診を支援している。主治医とは、いつでも連絡を取れる体制があり、急変時の対応の指示をもらったりしている。	なじみのあるかかりつけ医や、利用者および家族が希望する医療機関(医師)に受診できる体制がある。ホームと医療機関は、信頼関係が構築されており、急変時の対応も速やかに行われている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には、いつでも相談できる体制が整えてあり、日々の変化に気づいた時はすぐに報告し、その場で処置してもらったり、受診の指示を受けたりしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先へ面会に行ったり、病院側からの経過報告をいただきながら、こちらからも情報提供する等、相互に連携がとれるよう努力している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合の指針を契約時に説明。実際、その段階になった場合は、家族に意志の確認をすると同時に主治医や関係者と話し合いの場を設け、状況に応じて今後の方針を何度も話し合っている。	契約時に重度化や終末期に関する指針を説明。同意書も用意されている。ホームは主治医や家族との話し合いを繰り返し、訪問看護の協力ももらいながら、利用者、家族の希望に沿えるチーム体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	心肺蘇生法やAEDの使用法の勉強会を定期的実施している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地元消防団の参加を得て、避難訓練を実施している。また、地震についての勉強会も実施。地域住民との協力体制の強化も図っている。	9月、3月に総合防災訓練を実施。あらゆる災害を想定した災害対策訓練は2か月に1回行っている。全職員が避難法を身につけることができるよう、法人内で勤務を調整している。今年度は、起震車体験(地震想定)をする等、内容も充実している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	セルフチェック表により1日のケアのあり方を反省すると同時に、言葉かけや対応の仕方を常に意識している。	ホーム独自で作成したセルフチェック表(個人の尊厳やプライバシーを遵守するツール)を用いて、利用者に対する言葉かけや仕草等を確認し、責任ある行動がとれるよう職員の意識づけが行われている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	まず、必ず希望を尋ねる。はっきり言える人、二者択一なら選べる人、言えない人には表情を読み取る工夫。利用者の能力に応じて働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	強制はせず、その時の気分や体調に合わせて、本人のペースをまず大事にするよう心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服のアドバイスをしたり、化粧の声掛け、鏡を持たせたりしている。カット・パーマ・ヘアカラーの段取りをしたりもする。服を職員と一緒に買いに行き、自分で選んでもらったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の状況に応じて、料理の下ごしらえや、配膳、下膳、食器洗いを職員と一緒に実施。また、メニューにない献立に変更したり、好きなものを楽しく食事ができるよう支援している。	職員は、利用者の状態に合わせて、料理の下ごしらえや配ぜん、下ぜん、食器洗いを利用者と一緒に取り組んでいる。漬物を利用者と作り、食事の時に一緒に味わう等、食べる楽しみにつながる支援も行われている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	ケース記録に食事量や、水分量を記入して、栄養やバランス等の把握に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	利用者の状況に応じて、口腔ケアの支援を実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	利用者の力や排泄パターン、習慣に応じた声掛け、失禁する前に早めにトイレ誘導したり、尿量に合わせパットの使い分け、布パンツとリハビリパンツの併用等の実施もやっている。	一人ひとりの排泄支援のあり方や現状を丁寧にチェックし、しゅう恥心や不安を軽減するための配慮が行われている。トイレの中には、トイレトーパーではなく、落とし紙が用意され、利用者に対するさりげない気遣いがある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便チェック表を利用しながら、水分量の調整、整腸剤・下剤の服用調節と同時に、お腹のマッサージや手の平マッサージの実施をしたり、食事にも気を配っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	利用者にいつ入浴したいのか、希望を尋ねてから、入りたい時間に入浴できるよう努力している。	職員の都合で曜日や時間が決められていないが、利用者の習慣や好みに合わせ、スムーズで安全な入浴支援が行われている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者の生活習慣に合わせた寝具や湯たんぽを入れたり、空調の調整をしたり、静かな雰囲気確保したり、その時々に合わせて努力をしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の目的、用法・用量の把握は全職員で行っている。また、利用者に応じて薬の管理、確薬、服薬介助を実施。変更があった場合は、その都度、申し送り等で確認している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者に応じた家事の役割分担を実施。また、笑顔を引き出す支援を毎日心掛けている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	気分に合わせて散歩したり、買い物に出かけたりする。行きたい場所を聞いて、毎月1回の野外レクリエーションにとり入れたり、同行したい家族には一緒に参加してもらっている。	利用者の状態や習慣、有する力を生かした外出支援を行っている。管理者は、地域住民にも理解を求め、家族と協力しながら、利用者の意向を大切にしながら日常的な外出支援を提供している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	管理が可能な人には、少額を個人で管理してもらっている。また、買い物時に支払いが出来るよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら番号が押せる人はいないが、希望された時には、いつでも職員が段取りして会話をしてもらっている。年賀状やお礼のハガキを出す支援も行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	カーテン等で明かりの調節をしたり、エアコンの利用、加湿器の使用、テレビや音楽を流す時の音量調節等、その時々に合わせて調整している。季節に応じた花や月行事に合わせた、飾り付け等も実施している。	五感刺激に配慮した空間は、色、光、匂い、音、広がり、家具等の質感まで生活感があふれている。季節を感じさせる花やひな人形は、利用者の誰もが目にする場所に飾られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う者同士で座ってもらって、会話を楽しんだり、利用者に合わせて居場所の確保に努めている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族写真や、使い慣れたものの持ち込みは自由に行ってもらっている。	写真や使いなじんだ思い出の品々が持ち込まれ、利用者一人ひとりの居場所が確保されている。居室は清潔感があり、プライバシーや尊厳を大切に、安心して過ごせる雰囲気がある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所や、居室の場所には、分かるように表示をしている。		